

## 対馬から発見されたクヌギカメムシ属 (*Urostylis*) の 雄生殖節中央突起について

境 良朗

2016 年の晩秋, 越冬ゾウムシの採集でもしろうとクヌギをスウィーピングしていると交尾中の 1 ペアと 1♂1♀の計 4 頭のカメムシが落ちてきた (図 1A・B). 中型のカメムシで体型と色彩からクヌギカメムシ属 *Urostylis* ではないかと推測されたが, 前翅革質部の黒い点刻が中央部に存在せず, 爪状部にも認められないことに違和感を持った (図 2C). 体色が黄褐色を帯び, すでに産卵期の同属他種と同様に体色が変化していると思われた (図 2D).



図 1 A, B : *Urostylis hubeiensis*

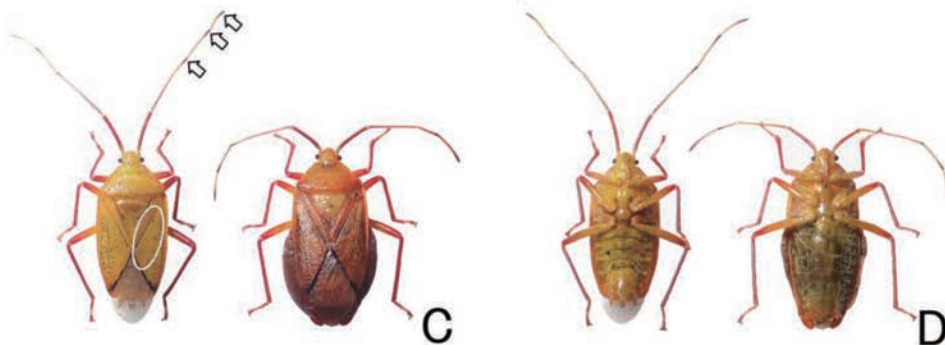


図 2 C: 背面, D: 腹面 (いずれも左: ♂, 右: ♀)

調べてみると革質部の黒点刻の配列以外にも, 同属他種に比べて触角先端 3 節の黒色部が狭いことなどの違いが認められた (図 2). そこで東京農業大学の石川忠氏に精査をお願いするとともに, 石川氏自身も来島され調査が行われた. その後, 九州大学 (当時) の相馬純氏が中心となって研究が進められ, 本種は中国と韓国の大陸部に分布する日本未記録種 *Urostylis hubeiensis* Ren, 1997 と同定され, 本邦から初記録された (Souma et al., 2022).

ここでは♂生殖節中央突起に着目し, 同属他種との違いについて報告する.

### 日本産 *Urostylis* 属の♂生殖節中央突起の違い

日本産 *Urostylis* 属の判別形質については Souma et al. (2022) に詳しいが, ここでは雄生殖節を示した. 中央突起の形状に次のような違いがある (図 3).

- ・ *Urostylis hubeiensis* (和名未定) 側縁は平行で, 先縁は中央で浅く凹む (図 4).
- ・ クヌギカメムシ 先端に向けて狭まる.
- ・ ヘラクヌギカメムシ 側縁は平行だが, 先端付近で僅かに広がる. 先縁は直線的である.
- ・ サジクヌギカメムシ 側縁は全体的に外側へ広がる. 先縁は外側へ湾曲し, 中央で深く凹む.

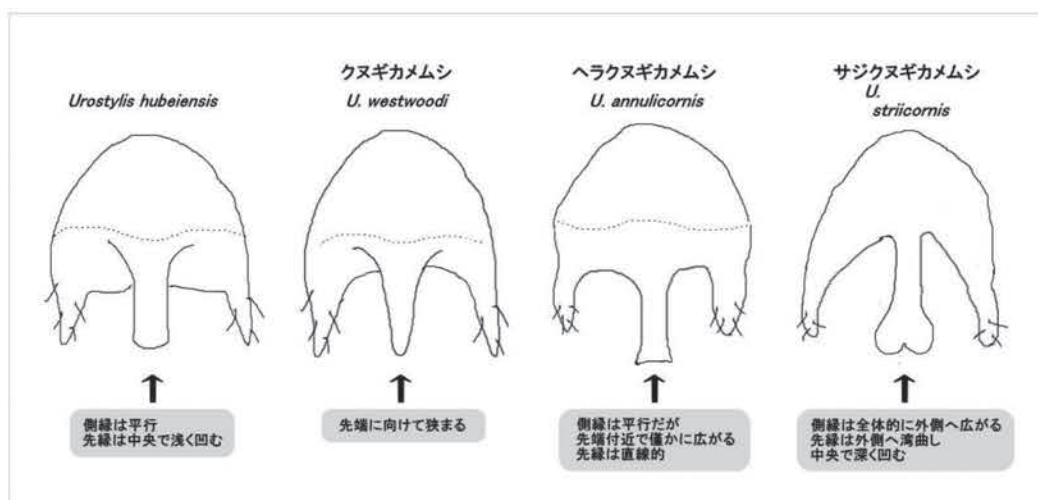


図 3 *Urostylis* 属の♂生殖節中央突起



図 4 ♂生殖節



図 5 ♀生殖節

### 島内における分布と寄主植物

本種は島内に広く生息し、特に中部以北で個体数が多い。スウィーピング採集をしているとクヌギをはじめ各種の植物から落ちてくるが、寄主植物の特定には至っていない。

幼虫と思われる個体も何度か確認したが樹種を特定できなかった。図 6 が新鮮な個体の体色だが、しばらくすると濃い緑色を帯びてくる。

末筆ながら、相馬純氏（弘前大学）には日頃よりカメムシ全般についてご指導いただくとともに本報文全般にわたり多くのご助言をいただいた。深く感謝申し上げます。



図 6 新鮮な個体

※本稿脱稿後、和名「タイリククヌギカメムシ」が提唱された(相馬, 2024)。

### 引用文献

Souma, J., Sakai, Y. & Ishikawa, T., 2022. First record of *Urostylis hubeiensis* Ren (Hemiptera: Heteroptera: Urostylididae) from Japan, with an illustrated key to the Japanese urostylid species. Biodiversity Data Journal, 10, e83656.

(さかい よしあき：〒817-0032 長崎県対馬市厳原町久田 451-2)